

市民クラブ 藪田 啓介 議員

令和3年度施政方針について

(質問) 高齢化社会における地域交通について自ら移動手段を持たない高齢者の移動の確保への対応はどうなっているのか。小児救急など医療体制の充実についてはどうなっているのか。また、優良田園住宅制度の制定は地域にどのような効果を目指しているのか。

(答弁) 高齢化社会における地域交通については

地域づくり協議会・Cバスを含む地域資源と福祉施策との協働など新たな公共交通ネットワークを構築してゆく。医療体制の充実については三重県と連携し人材育成を目指すとともに、医療機関への補助事業を見直してより安定した医療提供体制の確保を図っていく。優良田園住宅は地域のコミュニティ維持を目的とした制度であり、市街化調整区域の諸課題に対応できる可能性がある。今後も十分検証しながら地域コミュニティ維持に向け、取り組んでいく。



新緑風会 山中 智博 議員

令和3年度施政方針について

(質問) ①国連によるSDGs(2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標)をいかに市政に反映するか。②地域の防犯活動への支援は。③ニーズの高まる休日保育への対策は。④途切れない子育て支援に取り組む上で教職員の負担軽減への考えは。⑤制度のはざまにある方や複合化した福祉課題への対策は。⑥地域経済

の自立的な発展への考えは。

(答弁) ①SDGsの理念を意識し、いつまでも住み続けたいまちの実現に取り組む。②防犯カメラ設置補助制度創設を検討する。③私立園への補助金制度を創設する。④負担軽減の一助として、引き続き市独自で非常勤講師などや学校業務支援員を配置する。⑤本市生活相談窓口で鈴鹿市社会福祉協議会の職員を配置し、一体的に取り組む。⑥産業集積を促進し、既存の自動車産業を中心にものづくり産業の底上げを図る。



鈴鹿太志会 明石 孝利 議員

令和3年度 市長の施政方針を問う

(質問) 市長の施政方針の根幹をなす6つの柱につき、現況と今後の情勢を鑑み、それぞれ取り組むべき課題を指摘したが、その中の「活力ある産業が育ち にぎわいと交流のあるまち」について、本市の基幹産業であり、100年に一度の大変革期にある自動車産業への取り組みを問う。世界はカーボンニュートラルに向け、これま

でのガソリン車から電気自動車などへ大きくシフトしようとしている。これにより部品点数が大幅に減少するが、部品製造の多くを占める本市の中小企業者の生き残りのための支援、取り組みはどう考えているのかを問う。

(答弁) 今後の電気自動車などの技術開発は自動車のみならず多くの産業に関連し、産業集積や多様な産業構造構築を図り、次世代自動車関連のサプライチェーンの強化などを目的に施策を講じる。



公明党 藤浪 清司 議員

施政方針について

(質問) 施政方針では、高齢者などの移動手段確保について、『課題に対応するため、本年1月から一ノ宮地区において、乗合ワゴン事業の実証運行を開始した』、『このような課題解決に向けた取り組みに加え、皆様のご意見を基に新たな地域公共交通計画を策定するなど、本市にふさわしい公共交通ネットワークの構築に引き続き取

り取り組んでいく』とあるが、今後の展開・計画について尋ねる。

(答弁) 現在、実証運行中の、地域が主体となって進めている一ノ宮地区の乗合ワゴン事業をはじめ、住民の助け合いによる外出支援や福祉移送サービスといったさまざまな輸送資源を総動員し、公共交通機関と連携を図り、効率のかつ効果的に組み合わせることが重要である。こうした取り組みにより持続可能な公共交通ネットワークの構築につなげていきたいと考えている。

